

U35 のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。

京都市基本計画審議会

レポーター 越村 美保子さん

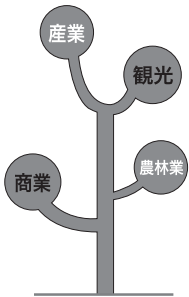
愛知県豊橋市生まれ。京都橘大学大学院
文化政策学研究科博士後期課程単位取得
満期退学。U35副議長。大学時代から京
都在住で15年。2男1女の母。

第6回 活性化部会

開催日：平成22年7月5日(月) 会場：消防局本部庁舎
主な議事：基本計画第2次案の検討について(産業・商業、観光、農林業)

POINT

1

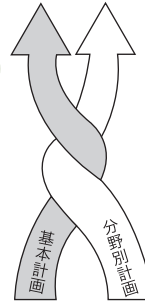
京都の付加価値を
生かす戦略とは？

今回の会議では「産業・商業、観光、農林業」の各分野の第1次案のパブリック・コメントの反映と第2次案政策の体系について検討が行われました。それぞれ魅力のある分野ですが、これらの担い手をどのように育成していくのか、京都の付加価値として地域資源をどのように生かすかについて議論が行われました。

会議の
ポイント

POINT

2

推進施策と関連する
分野別計画との方向性

基本計画の推進施策と、関連する分野別計画との方向性がどのようになるか議論が行われました。たとえば、伝統産業では「伝統産業活性化推進計画」、観光では「未来・京都観光振興計画2010+5」があります。分野別計画もすでに5年、10年後を見据えた取り組みが始まっており、基本計画との連携が重要だと思いました。

この会議を傍聴して、
越村さんが思ったこと

伝統産業の活性化についての議論がありましたが、私も大学院で研究を続けてきたテーマです。職人さんの高齢化や生産高の減少、後継者不足などの問題が長年にわたって起こっている中、いかに後継者育成をし、活性化させていくのかという大変重要な課題があります。高齢化した熟練の職人さんが減っていった時、伝統産業の業界全体がまた低迷していくのではという懸念があります。60代～80代の職人さんの技をいかに若い従事者に伝えていくか、この10年が勝負の時です。

堀場部会長から「伝統産業の活性化には、職人が必要だが、この方々がいなくなっているのではないか」との発言がありました。伝統産業の技術を身につけるにはどの業種でも約10年かかるといわれています。大変時間がかかりますが、需要が減り、熟練した職人さんの仕事も減っている中、若い従事者が育成される余裕がないのが現状です。これから先の職人さんを育てていくためにもまずどの業種にどんな職人さんがいて、どれくらい減ったのか、これから職人さんがいなくなる懸念のある業種についての調査研究、具体的な育成施策が求められていると思います。

未来に向けた越村さんの提案
私ならこうする！

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

